

# 戦争をなくそう

## 尾久初空襲を語り継ぐ

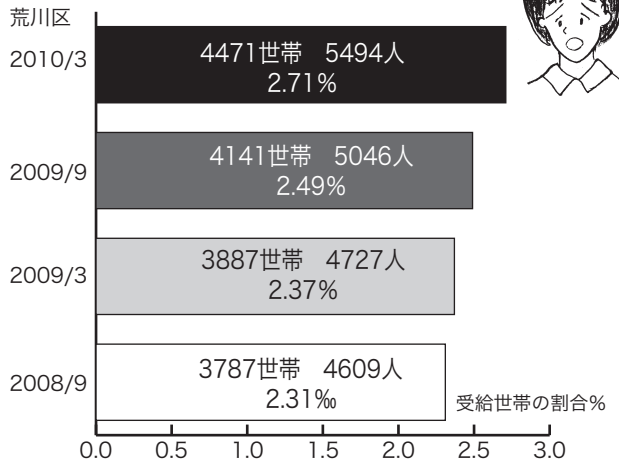
(1942年4月18日)

議員になってから毎年、初空襲のあった4月18日頃、慰霊の集いを行い、地域の歴史として戦争体験を語り継ぎ、平和を考えようと訴えてきた。

今年4月18日に行われた、尾久橋町会主催の尾久初空襲を忘れないコンサートには530名が参加した。戦争体験者のインタビュー、荒川少年少女合唱隊の歌、尾久小6年生の研究発表、尾久八幡中の器楽演奏とお年寄り子どもたちが心通わす集いとなった。

米軍基地移設の動きはどうなるのだろう。戦後ずっと米軍基地をかかえ、犠牲になってきた沖縄の人たちの「米軍基地はいらない」という声を形にしたいと心から願う。日米安保条約締結から50年、オバマ米大統領は、所有する核弾頭が実戦配備と予備と合わせ計5113発であると発表し、核軍縮に取り組む姿勢を示してる。鳩山首相も、米軍基地を県外へ、国外への道を粘り強く探してほしい。平和への道筋である。時間がかかってもいいではないか。

# 生活保護世帯急増



政権交代の結果、貧困の調査発表が行われるようになった。生活保護並み以下の収入の世帯のうち、生活保護を受けているのは2割以下という。生活保護家庭の自殺率は一般家庭の2倍ともいう。困った時の備え、老後の備えがあれば、人々は消費を楽しむことができる。日本の高い貯蓄率は、不安の裏返しである。

社会保障と財源問題が大いに公開議論され、政府がすみやかに立て直しに着手することを、切に期待している。



## ●本の紹介●

口から食べられなくなったら  
どうしますか

## 「平穏死」のすすめ

石飛幸三 著

特別養護老人ホームの常勤医が終末医療の現状と「安らかな死」について語る。今の日本の医療では、自然な老衰で寿命を迎えることが困難になっていると医師が発言する意義は大きい。今や、多くの高齢者が、無駄な延命治療を望んでいない。「安らかな死」を重んじる死生観と、医療・福祉の体制変換が必要だ。

2010年4月25日 .....

## 「なくそう! 子どもの貧困」

全国ネットワーク設立記念シンポジウムに参加して

子ども時代を乳児院や貧困・困難家庭で育った当事者たちが、リッパに大人になって、自分達の苦労を後輩たちには軽減させたいと自ら取り組んでいる姿が印象的だった。貧困の連鎖を断ち切るためには、「親の放任・怠惰・就労・虐待・行方不明・精神疾患など何らかの事情で親と暮らすことが困難な子どもたちのための乳児院・自立援助ホームなど」の社会的擁護施設への支援がもっと必要だろう。子どもを十分に育てられない家庭への配慮がいきとどく地域づくりも必要だ。定時制高校の先生の、「高校生になると、自己否定感や挫折感が大きすぎる。せめて、小学校時代に手当てをしてほしい」という発言には、義務教育のありがた、地域での配慮のあり方が問われていると思った。荒川区での取り組みを考えたい。

